

「わっ」と驚くような
個性的なまちに育ってほしい。



櫻山文枝 (かしまふみえ)

1941年生まれ。武蔵野市出身。女優(劇団民藝所属)。NHK朝の連続テレビドラマ「おはなはん」の主演で注目を集め、一躍スターに。テレビや映画、舞台で活躍し、今年10月からは、原爆の問題を主題にした舞台「冬の花〜ヒロシマのころ」で、被爆した夫を懸命に支える公枝(きみえ)を演じる。



武蔵野市立第三中学校の3年生のときに、学校で行った芝居「夕鶴」の「つう」役で演劇への扉を開いてもらったという、女優・櫻山文枝さん。いまでも武蔵野市への愛着は人一倍です。

私は、吉祥寺生まれ、吉祥寺育ち。これまで一度も武蔵野市を出たことがない、生粋の武蔵野人です。もう少し冒険すれば良かったかしらと思うけれど、武蔵野市を出るなんてまったく思いつかなかつたですね。忙しかつたし、彼(ご主人の俳優・綿引勝彦さん)も家が武蔵境だったから、結婚後はそのまま武蔵境に住んで、今に至っています。それだけ武蔵野市が住みやすいということでしょう。

仕事をして都心から家に帰って来ると、気温がグツと下がる感じで気持ちが良いですね。家の前には遊歩道が伸びているんですけど、木々の緑に囲まれて、自然にスーッと深呼吸したくなる。私は声を出す商売なので、家でセリフの稽古をしますが、そのときもケヤキの木々を眺めながら、周りの家を気にすることなく大きな声を出すことができて、本当に心地いい環境にいるなと思います。

ここに住んでからの一番の思い出は、玉川上水で拾った犬のさくらと私と彼とで、当時はたくさんあった畑や原っぱの中をそれこそ「夕日に向かって走れ！」って感じて遊んだことかな。その印象が今でもとっても強い。でもほとんど自然が減ってきているでしょ？ まちづくりにはぜひ緑や土、自然をもっと残す方向でお願いしたいと思います。



どこにもあるような商業都市になつてほしくないんですね。私は地方公演もあるので、全国のまちに向いていますけれど、どこもまちの顔が似てしまっているの。だから武蔵野市には、駅に着いたら「わっ、なんて素敵なおまち」って思ってもらえるような個性を大切にする場所になつてほしい。

あとは、私も老後を考えてはならなくなっているの、街中に老人ホームをつくってほしいかな。デパートの上にホームがあったら素敵なんだけれど(笑)。ちょっと下の階に行ったら、すぐお買い物ができるって便利だし、楽しいじゃない？ そして若いお母さんのために託児所もあったりする、みんなが住みやすい場所になつてほしいなと思います。

PRESENT

今回取材した櫻山文枝さんの直筆サイン入り色紙を抽選で5名様にプレゼント! 詳しくは本誌折り込みカードをご覧ください。

